



第27回例会報告 *通算例会回数4097回目* (3月17日 於 今治商工会議所2階 大会議室)

【 出 席 報 告 】

・会員数 55名 ・出席数 30名 ・欠席数 25名
 ・当日出席率 58.00% ・前々回修正出席率 100%
 <欠席会員>安藤、平田、廣川、板脇、神道、菅、片山、冠、小堀、桑森、宮道、大澤、大河内、坂本、田中、渡辺(仁)
 八木(正)、八木(真)、山本、米北、吉武
 [免除会員] 青野(明)、檜垣(巧)、光藤、村上
 <1/13 欠席補填>(1/3 今治北)神道、菅、楠橋、眞鍋、宮道、中村、西本、大澤、岡本、大河内 (1/4 今治南)平田、小堀
 ※3月同様に4月中も例会欠席でメイクアップしなくても個人の出席率には影響しません。
 それ以降の期間につきましては、理事会で協議させていただきます。

◇会長挨拶・今治港開港100周年に因み、今治の「港の恩人」である飯忠七さん(今治RCパストガバナー飯忠悟さんの三代前)をご紹介します。▼瀬戸内海では江戸時代から帆船による本格的な海上輸送が行われており、当時の海運業は藩の仕事か民間商業の一環として、商人が自分の商品を自分の船で輸送する形態でした。幕末から明治初期にかけて、他人の荷物を自分の船で運ぶという海運業が登場し、一般に近距離航行は手漕ぎ、遠距離には帆を用い、急用の場合は櫓と帆を併用する「押切船」が使われていました。遠距離航行に押切船を使うことは、漕ぎ手を多数確保しなければならないので、経費が高くなるという欠点がありました。これをあえて企業的に行ったのは飯忠七でした。明治3年に押切船一隻を購入し、漕ぎ手を4人雇って営業を始め、今治の木綿布の販路を大阪方面に拡大すると共に、文明開花の品々を今治に持ち帰り、その後押切船による開運業は大きく発展し航路も中国・四国全域に拡大しました。▼明治7年頃には蒸気船時代の到来を確認し、蒸気船を今治港に入港させて町の繁栄を図ろうと、寄港誘致の運動を始めました。今治市の資料によると、「忠七は毎日のように海岸にたたずみ、蒸気船が今治沖を通過するのを見ると、伝馬船を漕ぎ出して昼は旗を、夜は提灯を振って狂気のごとく停船を求め寄港を依頼しました。ある時は船主を尋ね、今治寄港による地域産業の開発を懇願しましたが、〈収支が合わぬ〉とその願いは受け入れられませんでした。ついに、忠七は伝馬船を漕ぎ出し無謀にも航行中の蒸気船の直進路に突入し、伝馬船が木っ端微塵に砕けるか、蒸気船が止まるかの捨て身の戦法に出ました。人々は、この姿を見て、”忠七は気が狂った”と噂し合った」と書かれています。飯忠七の熱意は徐々に効を奏し、明治9年遂に蒸気船の大阪航路の誘致に成功します。▼その後蒸気船の寄港が増え、回漕問屋「吉忠」を創業しました。当時の今治港は浅かったので、船はかなり沖合にしか停泊出来ず、その間を「はしけ船」でつなぎました。夜間航行の安全を確保するため、糸山に灯台を建設するよう政府に懇願し、明治20年代には実現し、更に明治30年には自ら福盛丸を新造して、今治・宇品線に就航させました。しかし明治38年日露戦争後、地場産業の伊予ネルの生産が激増し海上貨物が増えた時も、多くの貨物は港外で「はしけ船」によって積み下ろししなければならない状態でした。それを解決すべく、今治町と日吉村が合併して今治市が誕生した大正9年に今治港の起工式が執り行われ、大正11年2月10日四国で初めての開港場、つまり外国貿易船が出入り出来る港の指定を受けました。▼今年がその100周年にあたります。飯忠七さんの業績を讃える「飯忠七翁功績の碑」は現在ふれあいマリン広場に有り、同広場には今治RC創立50周年記念事業の徳蘆花の石碑、そして創立60周年記念事業の時計も有ります。四国で最初の開港、四国で最初のキリスト教会、四国で最初のRCを記念するものが今治港に集まっています。

◇幹事報告

- ・ガバナーエレクト事務所より、木村会員へ委嘱状が届きました。
- ・ガバナー事務所より、ウクライナへの災害救援基金への寄付のお願いがきております。例会中お盆回しをさせていただきます。ご協力よろしくお願ひ致します。
- ・(株)新工業 代表取締役 西村 明(にしむら あきら)氏の入会手続きが規定の段階を経て理事会に推薦がありました。推薦人は吉田会員と吉武会員です。異議のある方は7日以内に申し出て下さい。

【※ウイルスメール注意喚起のお知らせ】「Emotet」(エモテット)と呼ばれるウイルスへの感染を狙う攻撃メールが、国内の組織へ広く着信しています。特に、攻撃メールの受信者が過去にメールのやり取りをしたことのある、実在の相手の氏名・メールアドレス・メールの内容等の一部が攻撃メールに流用され、「正規のメールへの返信を装う」内容となっている場合や、業務上開封してしまいそうな巧妙な文面となっている場合があります。注意が必要です。

会員卓話

◆楠橋功会員『今治クリテリウムについて』

①今治クリテリウムを実施する背景…2021年3月に「今治クリテリウム実行準備委員会」を立ち上げ、県や市と連携を取りながら本事業の実施に向けて本格的に始動しました。自転車競技レースの魅力を生市内外に発信し、自転車人口の裾野を広げることに寄与していき、将来的には選手や指導者の育成を含めて、今治に自転車文化が根付き経済が活性化することを最終目標として今後も推進していきます。



- ②今治クリテリウム開催意義…
- 今治を「世界中のサイクリストの聖地」にする。
 - 今治に全国・全世界のサイクリストに巡礼して頂き、経済を活性化させる。
 - 今治のサイクリストを増加させ、市民の健康に貢献する。
 - 今治発「プロサイクリスト」の裾野を広げる。

③クリテリウムとは…クリテリウムとは自転車ロードレースのひとつで、市街地や公園内の通路等を交通規制して、通常1周1km～3km程度の周回コースを規定回数走行し、順位を競うレースのことです。曲がり角等様々な道路条件によって、選手達のせめぎ合いやチーム同士の駆け引き等スリリングなレース展開が何度も間近で体験出来るのがクリテリウムレースの魅力です。1周1分～3分程度で選手が戻ってくるので、1時間弱の間飽きることなく観戦出来るため大変人気が高い自転車レースの形式となっており、特に瞬発力が必要とされるゴール前スプリント勝負においては大変迫力があるシーンが見られます。▼今治クリテリウムのコース設定では、タイトなコース幅やストップ&ゴーが多く抜きどころが少ない為、選手にとっては足を削られてしまう難しいコースレイアウトとなっています。<例会中視聴動画 YouTube:Jプロツアー2021年第10戦 石川クリテリウム>

④今治クリテリウムの概要…

- 【大会名称】 第1回今治クリテリウム2022 ※今治商工会議所120周年記念事業（第1回大会のみ）
- 【主催】 今治クリテリウム実行委員会
- 【開催日時】 2022年10月29日(土) ※サイクリングしまなみ2022の前日
- 【開催場所】 今治市 みなと交流センター はーばりー周辺市街地
- 【開催コース】 1周 1.43km (みなと交流センター「はーばりー」前 スタート/ゴール)
- 【参加団体】 JBCF(全日本実業団自転車競技連盟) Jプロツアー最終戦
- 【登録選手数】 約100名 (日本のトップチーム14チーム)
- 【来場者数】 目標5,000人

⑤最後に…

自転車競技も含めた〈今治＝聖地〉のイメージを確固たるものにし、今治を〈サイクリストの聖地〉として世界中に発信・認知するために、将来的にはこのレースを国際的な大会に発展させていきたいと考えています。長期化するコロナ禍の影響などにより、厳しい経済状況下にあることは十分承知していますが、この困難な時代だからこそ「プロサイクリストが生み出す興奮と感動」を市民の皆様体験して頂き、今治を元気づける一助となればと考えています。



▼『今治クリテリウム』が世界中の注目を集める大会となり、地域経済の成長・発展に寄与する共に、今治の名を世界に轟かせるよう努力して参りますので、是非多くの皆様方のご協賛、ご高配を賜りますよう厚くお願い申し上げます。

次回例会(3月24日)

【大分類別卓話 尾越優会員】

<入会記念日祝> 菅 主浩氏 (3/28)

〔俵屋〕

※事前連絡の為、水曜日の16時までに例会欠席連絡を事務局までご連絡ください。